

協働型災害訓練参考資料 市民の災害支援活動の歩みとNPO連携



**市民キャビネット災害支援部会
特定非営利活動法人NPO埼玉ネット
協力 立正大学・地球環境科学部・環境システム学科**

※このパンフレットは、埼玉県NPO基金(損害保険ジャパン株式会社 の防災・地域安全支援事業)の助成を受けて作成しました

未来への宣言

平成23年3月11日14:46に発生した東日本大震は、

1. 1000年間経験したことのない巨大地震
2. 地震によって発生した1000キロを超える大津波が太平洋に広がる地域を壊滅
3. この自然災害が文明災ともいうべき原子力事故の引き金にと、未曾有の巨大災害をもたらしました。

阪神・淡路大震災と今回の震災との大きな違いは、NPOとNPOによる市民災害支援活動といった経験・考え方がない時代とある時代だということです。今まさに、自然発生的にさまざまな分野のNPOが連携し、いち早く救援活動に乗り出しています。

「市民キャビネット災害支援部会」も、被災地のNPO・市民団体等と連携し、後方支援を担っています。そして本日、ここに、岩手、宮城、福島の7つのNPOネットワーク代表と、それを支える全国のNPO・市民団体が集っています。

私たちは、被災地や避難先のNPO・市民団体等が自らの活動を前進させ、その上に地域の被災者支援の輪を広げていくことを目指します。また、被災した人たちが自主的なボランティアグループを形成し、支援活動を通じて、NPO・市民団体として発展していくことをサポートします。

この「プロジェクト」は、国、地方公共団体、企業、労働組合等と協働して、市民が自主的・主体的に復興支援を行うプロジェクトであり、大震災発災後に、NPO・市民団体等の特性を生かした献身的な初動活動を行った被災地・避難先のNPOネットワークと連携し、復興支援に真剣に取り組むNPO・市民団体のプロジェクトです。

さらに、既成の枠にとらわれない自発的な市民の発意、工夫及び意思を尊重し、誰でもが希望すれば参加できる「プロジェクト」です。

また、この「プロジェクト」は、被災地・避難先のNPO・市民団体等の意見を尊重した建設的な政策提言を政府に対し行い、復興に貢献します。

市民キャビネット災害支援部会が提言してきた「協働型災害ボランティアセンター」（別紙）の実現を目指し、市民が主体となって、仮称「復興支援ファンド」と「災害支援人材研修センター」の設立を進める歴史的な「プロジェクト」でなければなりません。また、行政は行政、市民は市民、企業は企業だけのことをやるのではなく、寄付・投資減税などの政策的枠組みをこの「プロジェクト」に併せて実現し、志ある資金と人材、人材の持つ知識や経験を集結させることが必要です。

平成7年12月10日、『市民とNGOの「防災」国際フォーラム』での神戸宣言およびその後の実践・協働を引き継ぎ、ここに集まった市民の総意として、再度宣言いたします。

「私たちは、自ら“語り出す” “学ぶ” “つながる” “つくる” “決める” 行動を重ね、新しい社会システムを創造していく力を養っていくことから、日本国全体の復興の道を踏み出していくことを、そして、次世代に豊かな地域を残していくことを、ここに強く宣言します」。

2011年（平成23年）4月24日 東日本大震災復興NPO支援・全国プロジェクト

（於 立正大学品川キャンパス）

市民キャビネット災害支援部会活動記録

2011年（平成23年）3月11日14時46分ごろ発生した東北太平洋沖地震災害について、新しい公共をつくる市民キャビネット災害支援部会は、支援体制を整え、同日活動を開始しました。

市民キャビネット災害支援部会の母体となったのは、2005年8月、埼玉県NPOオフィスプラザ運営協議会での活動、論議を通じて、埼玉県における確たる中間支援団体の必要性を認識し、特定非営利活動法人NPO事業サポートセンター（現在公益社団法人ユニバーサル志縁センター）の支援を受けて設立された「NPO 埼玉ネット」です。「NPO 埼玉ネット」はその後2006年11月14日「特定非営利活動法人NPO 埼玉ネット」となり、現代表理事松尾道夫を中心に人材の輪が広がり、様々な活動を通じて社会に貢献しております。

活動方針としては、全国的なネットワーク組織と連携し、かつ行政・企業との協働をすすめ、埼玉県における市民が行う非営利活動の連絡、交流、支援を行うことにより、特定非営利活動法人や市民団体などの事業・活動が円滑に運営され、豊かで充実した市民社会づくりに寄与することを目的としています。

活動分野は、保険・医療・福祉、社会教育、まちづくり、学術・文化・芸術・スポーツ、環境保全、災害救援、地域安全、人権・平和、国際協力、男女共同参画、子どもの健全育成、情報化社会、科学技術、経済活動、職能開発・雇用拡充、消費者保護、NPO支援と多岐にわたっております。

本書は、東日本大震災救援等の市民による支援の経験と教訓を次の災害支援に活用できるようにまとめて、発刊したものです。2013年より毎年開催している協働型災害訓練 in 杉戸のテキストにも予定しています。

【発足から2011年3月まで】の主な活動の一端を挙げると、

- 2005年12月 代々木公園における「NPOまつり」に実行委員として企画参加。
- 2006年1月 埼玉県主催の「埼玉NPOフォーラム」の運営協力
- 2007年3月 NPO法人地域創造ネットワーク・ジャパン設立総会に参加
- 2007年5月 キミに、つながレディオ！（スマイルFM）放送開始（2015年3月終了）
- 2007年11月 さいたま市合併記念見沼公園で行政、自治会と協働した「ふれあいまつり」共催
(以降毎年2回開催)
- 2008年2月 埼玉県浦和・大久保合同庁舎に設置するNPO共同オフィス運営団体に選ばれる
- 2008年2月 さいたま市北区支部開設
- 2008年2月 「朝霞市 NPO・市民活動啓発講演会（主催朝霞市）」運営協力
- 2008年4月 NPO・市民団体埼玉中央センター（埼玉NPOハウス）開設。管理運営
- 2008年4月 埼玉NPO うらわ・大久保ラジオスタジオ開設。管理運営
- 2008年6月 岩手・宮城内陸地震NPO支援センター設置。後方支援を行う
- 2008年6月 埼玉県協働提案事業「埼玉ストリートミュージシャン支援事業」採択・実施
- ➡集まったアーティストが東日本大震災支援に活躍することになる。
- 2008年9月 「セプテンバーコンサート」（共催NPO法人国境なき楽団：代表理事 庄野真代）以降継続。
- 2008年9月 「首都圏統一帰宅困難者対応訓練」（主催連合）受け入れイベント開催
- 2009年7月 山口・福岡豪雨災害NPO支援センター設置。後方支援を行う
- 2009年10月 衆議院第2議員会館第4会議室に於いて、予想される大地震等に備え、特定非営利活動法人沖縄災害救助犬協会、特定非営利活動法人九州救助犬協会、認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会、特定非営利活動法人日本搜索救助犬協会、特定非営利活動法人北海道ボランティアドッグの会は、全国協議会を設立し、災害時の共同出動態勢の確立および国との災害出動協定の締結を目指し設立。その後市民キャビネット災害支援部会

／NPO法人災害支援団体ネットワークへ加盟。東日本大震災はじめ多数の災害救援活動を行っている。

➡消防・警察と常時連携する緊急出動部隊が全国に配置され、災害時の情報共有・前進基地設置の基盤が確立した。

2009年10月 埼玉NPOつながリスト出版（埼玉県委託事業）

2009年10月 熱気球の仕組みと搭乗体験（子どもゆめ基金助成事業）以降毎年実施

2009年12月 市民キャビネットに設立呼びかけ人として参加。政府に対し、政策提言。

2010年1月 市民キャビネット災害支援部会設立部会長として参画

2010年4月 彩の国市民活動サポートセンター 企画運営開始（2012年3月終了）

2010年6月 特定非営利活動法人ドリームスカイ ユニオン（アーティスト部門）設立支援

2010年7月 厚生労働省「基金訓練」（NPO地域コーディネーター養成科）認定。

2010年8月 「災害時における応急対応、復旧・復興の取り組み」於埼玉県県民活動センター・サテライト会場 西宮市市民交流センター、御来賓挨拶：五十嵐文彦 衆議院災害対策特別委員長・野川和好伊奈町町長、講師 長島忠美全国災害ボランティア議員連盟会長、旧山古志村村長、村井雅清被災地NGO協働センター代表、江口タミ子全日本救助犬団体協議会、日本搜索救助犬協会代表理事、富山晶埼玉県危機管理防災部消防防災課主幹

➡ヘリチームとの連携のきっかけ

2010年12月 総務省「地域雇用創造 ICT 絆プロジェクト」企画運営開始

2010年12月 国土交通省と「災害支援基金、災害支援人材研修センター」設置について協議

2011年2月 市民キャビネット災害支援部会は霧島連山・新燃岳噴火災害支援活動を開始。



NPO埼玉ネット設立



NPO埼玉ネット設立



NPOまつり



NPOまつり



NPOまつり



埼玉県浦和大久保合同庁舎開所



埼玉県浦和大久保合同庁舎ラジオスタジオ開所



山口豪雨災害



市民キャビネット設立協議会

【東日本大震災支援活動】

2011年3月11日 市民キャビネット災害支援部会は埼玉県浦和・大久保合同庁舎に東日本大震災支援センターを設置し、支援活動を開始。

現在もメーリングリストは緊急時に備え稼働しています。参加希望の方は、<http://citycabunet.nngo.net/> からメールください。

メーリングリスト 日付と発信時間	支援団体	支援内容
2011/3/11 22:00	被災地 NGO 協働センター	先遣隊4名が出発。東海道・中央道は不通の個所が多いため、北陸道・山形経由で仙台に向かう。
	国際 NGO ピース ウィングス・ジャパン	宮城周辺被災地へスタッフ派遣を決定。緊急支援用大型テント「バルーンシェルター」（1セットで約100人収容可）や炊き出しセットを活用した避難所運営等を予定
	日本レスキュー協会	京都府警と連絡がつき、府警の緊急車両に同行が決定。合流後は東京方面に向かう予定。
	日本搜索救助犬協会	久喜市に滞在中。停電によって連絡が困難。 日本レスキュー協会経由がよいとのこと
	市民キャビネット 支援部会	現地からの報告を「東北太平洋沖地震支援センター」で受けインターネット、ラジオ放送で流す。 ボランティアでの活動のため、活動資金の寄付を呼びかける。
2011/3/12 5:40	NPO 法人 アトピッ子	現地の、食物アレルギー、ぜんそく、アトピー性皮膚炎、化学物質過敏症などの疾患のある患者とその家族への支援
	特定非営利活動 法人 JEN	被害が特に深刻な宮城県北部を中心に、支援の行き届いていない地域や人々に対し緊急支援を行うために、調査員として2名の職員を現地に派遣。
	すぎと SOHO クラブ	1000食分の食料を持って埼玉県杉戸町と友好姉妹都市である福島県富岡町住民が避難する福島県川内村へ駆けつけました。 その後川内村も全村避難をせざるを得ない状況となり、杉戸町では、富岡町・川内村住民200名以上の受け入れを行い、今もなお町内に残る避難者の自立支援、創業支援を行っています。
2011/3/12 17:00	国土交通省 政務官室	12日16時ごろから、宮城県災害対策本部を立ち上げ、市民キャビネット災害支援部会に支援要請を行う予定。
	市民防災 ヘリコプター チーム	2人乗り1機、4人乗り1機、6人乗り1機が運用可能。 現在、関越道赤城IC近くの基地に待機中。緊急物資の移送、山形空港を基地としての被災現場からの救出、移送も可能。 増便も可能であり、要請があれば対策本部の指示に従います。
	日本レスキュー協会	隊員3人・救助犬3頭態勢で京都府警と同行。盛岡南ICで降りて情報収集救援に入る。
	日本搜索救助犬 協会	札幌市消防の要請に基づき、隊員4人・救助犬6頭態勢で気仙沼消防本部に向かう。

	九州救助犬協会	札幌市消防の要請に基づき、隊員 6 人・救助犬 6 頭態勢で気仙沼消防本部に向かう。
	沖縄災害救助犬協会	札幌市消防の要請に基づき、隊員 5 人・救助犬 3 頭態勢で、13 日 20 時の飛行機で羽田に向かう。サポート要請
2011/3/12 17:00	NPO 法人 キャンパー	現地ボラセンからの依頼で出動のため、若干の時間はかかるが出動可能。炊き出しの際の野菜の提供。そのために購入・輸送ルートを確認するように要請。
2011/3/13 7:00	市民防災 ヘリコプター チーム	12 日は現地からの受け入れ態勢が整わず、赤城基地に待機。 13 日、気仙沼市元吉町外尾 25、避難所兼近隣への支援拠点になっている介護老人保健施設（はまなすの丘）に支援物資移送を開始。 山形空港を基地とし、2 人乗り、4 人乗り 2 機の計 3 機を赤城基地から移動予定。 支援物資の調達、仕分け、ヘリへの積み込み、カメラ記録係、ボランティア登録等の任務にあたるボランティア募集を社会福祉協議会、中間支援 NPO、介護系施設、一般、企業、生協、青年会議所、労働組合等へ要請。 支援物資が山形に集まっておらず、提供できる方に、飲用水、大人用紙おむつ、すぐに食べられる食料等の要請を行う。
	日本レスキュー協会	3 月 12 日 23 時、災害救助犬チームは、隊員 3 人・救助犬 3 頭態勢で盛岡の岩手県県庁に到着。東京消防庁の指揮下に入り、陸前高田の被災現地へと向かう予定。
	日本搜索救助犬協会	札幌市消防の要請に基づき、隊員 4 人・救助犬 6 頭態勢で気仙沼消防本部に向かうも連絡が取れないとのこと。
	沖縄災害救助犬協会	札幌市消防の要請に基づき、隊員 5 人・救助犬 3 頭態勢で、13 日 20 時の飛行機で羽田に向かい、NPO 法人日本太鼓協会の車両で気仙沼消防本部に向かう予定ながら、チケットが取れていない状態。チケットが取れるよう、手配を要請。
2011/3/13 11:00	市民防災 ヘリコプター チーム	介護老人保健施設（はまなすの丘）に支援物資移送後、JA22HY1 機を現地に残し、2 機に山形空港で燃料補給。ただ、山形空港には燃料が少なく、赤城基地に帰還。 パイロットの報告によると、施設は高台にあり臨時ヘリポートとして駐機できるスペースがあり、安全に支援物資の空輸が可能との判断。ただ、「施設に物資はあるので、近隣の孤立しているところへ配布してほしい」との要請があったということ。 なお、この施設は 3 階建てで、500 名以上の人が避難している様子。14 日の活動予定としては、4 人乗り 1 機で、パイロット 2 名、燃料を積み込み、赤城から介護老人保健施設（はまなすの丘）に移動し、その後、宮城県災害対策本部の指揮下に入る予定。

	日本レスキュー協会	隊員 3 人・救助犬 3 頭のレスキューチームは、陸前高田市に入り山形消防とともに 9 時 30 分から 16 時までの時間、捜索活動を行うも、生存者発見には至らず。現地は、水を含んだ泥濘と化し、救助犬による捜索は非常に困難な状況との判断。
2011/3/13 11 : 00	日本捜索救助犬協会	隊員 4 人・救助犬 6 頭が、気仙沼警察と合流し、唐桑地区の捜索救援活動を行う。
	九州救助犬協会	隊員 6 人・救助犬 6 頭が、現地に向かっている状況。14 日早朝に、宮城県災害対策本部に到着、指揮下に入る予定。
	沖縄災害救助犬協会	隊員 5 人・救助犬 3 頭が、14 日 16 時 45 分羽田着の後、NPO 法人日本太鼓協会の車両で、宮城県庁に向かう予定。
2011/3/13 23 : 00	被災地 NGO 協働センター	<p>現地先遣隊からの報告。宮城県名取市の閑上（ゆりあげ）地区で炊き出しを開始。閑上地区では 8000 人ほどが避難。</p> <p>3 つの避難所、館腰小学校、第一中学校、第二中学校のうち、第一中学校において、富山県高岡市からきて本格的な炊き出し活動を行っていた救援グループと一緒に炊き出しを行う。</p> <p>協働センターには、前日に、「名取市の閑上小学校が、SOS を発信している。助けてあげてください」という声が届けられたとのこと。この SOS があった地区で、偶然にも活動を行うことができた。</p> <p>ライフラインについて、電気はほぼ使えないが、水は一部通りはじめ、炊き出しはできる状態。ボランティアセンターの立ち上げについての検討がなされはじめている模様。</p>
	市民キャビネット支援部会	<p>「市民防災ヘリコプターチーム」「全日本救助犬団体協議会」に対する募金活動を埼玉県ふじみ野駅前で 13 時 30 分から 15 時 15 分まで行い、100,082 円が集まりました。</p> <p>なお、「東北太平洋沖地震支援センター」は、埼玉県の浦和・大久保合同庁舎 1 号館に移動し、現地からの報告をインターネット・ラジオ放送で配信。</p>
2011/3/14 20 : 00	市民キャビネット支援部会	<p>市民キャビネット災害支援部会（事務局・NPO 埼玉ネット）が発信した「福島からの避難民が米沢市に来て、米沢市内の避難所に移る。毛布が 500 枚足りない」との呼びかけに、静岡県ボランティア協会が手元に残っていた毛布を提供。今夜 6 時に静岡からトラックで米沢市役所に移送しました。深夜には米沢に届く予定と連絡あり。この仲介をしていただいたのは、生活クラブやまがた生協です。</p> <p>市民キャビネット支援部会では、新品の毛布、もしくは洗濯済みの毛布等の提供、並びに毛布を被災地に送る送料として毛布 1 枚につき、1,000 円の支援を要請。各地の小さな支援が点となり、線となり、面となることを望んで活動中。</p>
	市民防災ヘリコプター	「市民防災ヘリコプターチーム」は、14 日は山形空港の着陸許可が出ず、機体を戻すだけで、効果的な活動ができなかった。

	チーム(現市民航空災害支援センター)	米沢ヘリポートで着陸・燃料補給ができそうで、不足している航空用ガソリン(アブガス)の確保に向けて、国、マスコミの力を借りて活動中。
2011/3/14 20:00	日本レスキュー協会	3月14日(月)、朝7時の会議で福井消防とともに陸前高田市の米崎町周辺で捜索することを決定。 9時から16時まで捜索を行ったが、度重なる余震、あるいは津波が来るとの情報のために捜索が度々中断、一時退避を余儀なくされた。残念ながら生存者の発見には至らなかったが、遺体2名発見。 現在は、盛岡の岩手県対策本部に向かって移動中。
	日本捜索救助犬協会	隊員4人・救助犬6頭が、自衛隊と行動を共にして活動。 2班に分かれ、1班は、気仙沼市南町、柏崎、河原田、港町を巡回。 もう1班は、気仙沼市内ノ脇(ないのわき)、潮見町を巡回。
	九州救助犬協会	隊員6人・救助犬6頭が、現地の気仙沼市で、日本捜索救助犬協会に合流。
	沖縄災害救助犬協会	隊員5人・救助犬3頭は、特定非営利活動法人日本捜索救助犬協会と合流すべく、気仙沼市に向かう。
	北海道ボランティアドッグの会	出動準備を完了。
2011/3/15 9:00	市民キャビネット支援部会	市民キャビネット総務運営委員会を開催。経験ある市民ボランティア、災害救助犬移送の通行許可についての配慮を討議。「新しい公共をつくる」というスローガンのもと、全国のNPOと協議して支援体制を整え、人命第一を基本に現地での協働体制を築くため、次のことを決定。 ボランティアの募集。支援物資の募集(航空用ガソリン、及びガソリン、清潔な毛布、支援金)。「市民防災ヘリコプター」の燃料が供給できる企業等歓迎。 「輸送隊」…支援物資の輸送。車、免許を持っている方歓迎。 支援物資の受け入れ、仕分け。 基地は、埼玉県浦和・大久保合同庁舎 「カメラ隊」…カメラ撮影 (ビデオカメラ2台 NPO 埼玉ネットにあり。プロ仕様)、持ち込みカメラ、データ管理等 「募金隊」…募金募集、チラシ作製、情報伝達。各地で独自に開始されて構いません。取りまとめてご送金ください。 「広報隊」…ホームページ管理、情報発信(メルマガ、メーリングリスト等)、マスコミ係、 「救援出動隊」…経験ある方歓迎。組織的にチームを造れる方歓迎。 防災士の資格がある方歓迎。

		リーダーとともに現地入りスタッフは、寝袋等、自己完結できる装備を準備してください。
2011/3/15 20:00	市民キャビネット 支援部会	市民キャビネット総務委員会の協議に基づき、内閣総理大臣補佐官（災害ボランティア担当）、民主党幹事長 宛、下記の3点について、要望書を提出。 ① 災害支援ボランティアへの高速道路等の通行証の発行 ② 被災地入り口で検問を実施し、災害支援ボランティアによる全国の高速道路無料化 ③ 支援活動への優先的な燃料の提供 その結果 ① 通行：政府、民主党に対し、証について行政並みとする ② 国土交通省に要望 ③ ガソリン等の補給について優先する ④ さらに、行政、警察、消防、自衛隊等との連携について、対策本部の名前を使用してよい 以上でした。
	日本レスキュー協会	9時28分、隊員3人・救助犬3頭が、岩手県九戸郡野田村で捜索活動。 11時45分、野田村で捜索活動を行っていたが、重機が入り、復興作業になったため、救助犬による捜索活動は終了。 岩手県対策本部へ戻り、新たな捜索現場を検討。 16時10分大船渡市で捜索している大阪市消防と合流するため大船渡市に向かっていたが、大船渡市にはすでに多数の救助犬がいるために急きょ中止。 明朝8時30分から大阪府下の消防と合流で、生存者が発見された岩手県大槌町の捜索にあたる予定。
	日本捜索救助犬 協会	隊員4人・救助犬6頭が九州救助犬協会（隊員6人・救助犬6頭）と合流し、九州の自衛隊に同行し、気仙沼市田中地区を巡回。 生存者は、津波の被害で2階以上におられる方が多いので重点的に捜索したが、現場は壊滅的で生存者を発見するに至らず。
	沖縄災害救助犬 協会	岩手県大槌町に向かい、特定非営利活動法人日本レスキュー協会と合流予定。
	被災地 NGO 協働センター	先遣隊として12日～13日、宮城県名取市で活動した吉椿隊員が、名取市で聞いた被災者の声を届ける。 それによると、 ■閑上地区の人々が避難するAさんからの聞き取りの様子。 閑上地区の人々は地震発生直後、すぐ近くの公民館へと避難したが、危険だということですぐに閑上中学へと移動。 だが、その後すぐに小学校へと再び移動。閑上小学校では、次の津波

		<p>を警戒し、すぐに名取市街地のいくつかの避難所へ避難したとのこと。</p> <p>Aさんは着の身着のまま避難し、小学校に避難する際に津波でびしょぬれになったそうだ。たまたま避難した場所が校長室だったので、そこにあったジャージに着替え、カーテンを毛布代わりにして包まって寝たという。当然、丸一日、水も食料も口にすることはなかった。新しい避難所に移ってからも、毛布不足のため、救援物資の服をもらい着込んで寝たそうである。</p> <p>■名取市の避難所には、張り紙がたくさん張ってある。</p> <p>「〇〇さん、〇〇に避難しているから安心して」「〇〇さん、無事です」など安否確認の伝言板である。</p> <p>被災地では、未だ電気も不通で携帯も規制がかかっているためほとんど通じない。また、避難所の学校の各教室には、20人から30人が身を寄せ合って過ごしている。</p> <p>教室の前に張られた避難者名簿をじっと見つめる男性(30代)に「誰か探しているのですか」と声をかけると、「親父の行方が分からなくて。俺は仕事に行ったから……」との返事。</p> <p>さらに「親父を探して車であちこち避難所を回っているのです……」と目を赤くしていた。</p> <p>だが、閉上の人々は車も流され、避難所に家族を探しに行く足さえない人が多数。</p> <p>■名取市第一中学校南棟。</p> <p>各階には5つの教室があって、1クラスに20人から30人が避難しているのだが、3階の使われていない教室にたった一人しゃがみこんでいる女性を見かけた。「大丈夫ですか」と声をかけると「大丈夫です」と力のない返事だった。「皆と一緒にいたくないのですか」と聞くと「うん」とうなずいただけ。</p> <p>避難所は、今まだ水や食料が不足し、繰り返し襲う余震で緊張状態にある。悲しみに浸る余裕すらないように思えた。</p> <p>これからどんな悲しみ、痛みの波が襲ってくるのだろう。そんな人々に、全国の一人一人がどう寄り添っていくのか問われている。</p>
2011/3/17 7:00	日本レスキュー協会	<p>災害救助犬チームは、方針転換により、現地に残留することになりました。現在、花巻空港近くで待機中。</p> <p>本日の活動予定地域についてはまだ決定されていないとの事。</p>
	被災地 NGO 協働センター	<p>宮崎の野菜を NPO 法人キャンパーが輸送し、炊き出しを行うとのこと。</p>
	ユニバーサル デザイン研究機構	<p>大型トラック2台で、陸路、仙台・宮城ヘリポートへ向かい、「市民防災ヘリコプターチーム」の協力も得て、避難所へ物資を届けるとのこと。</p>

2011/3/17 23 : 30	全日本救助犬 団体協議会	生存者捜索活動終了。
	沖縄災害救助犬 協会	生存者発見できず。帰路につく。
2011/3/17 23 : 30	日本レスキュー協会	活動終了。帰路につく。
	日本捜索救助犬 協会	厳しい状況の中を、割り当てられた地域の捜索に単独であったり、自衛隊と協力しながら生存者救出に全力を尽くしたが、17日まで生存者の救出はできず。
	九州救助犬協会	生存者発見には至らなかったが、数多くの倒壊家屋からの遺体発見となった。本日をもって陸路九州に帰還。
	輸送隊	日立港病院に向けて、支援物資を輸送。
	ユニバーサル デザイン研究機構	支援物資を大型トラック 2 台で気仙沼市へ移送しました。 京都から支援物資 8 トントラック 1 台、毛布を積んだ 10 トントラック 2 台が東京を目指しています。 到着次第、いわきへ毛布 1000 枚、石巻へ毛布 1000 枚届ける予定。
市民キャビネット 支援部会	埼玉 NPO ハウスから株式会社 RST 提供 4 トントラックで、仙台芋沢ヘリポートに向けて出発。 国境なき楽団つばさ号 (4 トンロングトラック) が埼玉 NPO ハウスから仙台芋沢ヘリポートに向けて出発。	
2011/3/18 8 : 00	輸送隊	輸送隊の不足。埼玉 NPO ハウスから被災地までのトラック (4 トン 2 台分) が必要とのこと。
	市民キャビネット 災害支援部会	レトルト食品の募集。(福島県いわき市の松村総合病院)
	株式会社 ラッシュジャパン	チャイルドライン支援センターのご紹介で、支援金 100 万円と石鹸、化粧品など埼玉 NPO 施設に。仙台方面へと出荷。
2011/3/19 23 : 00	市民キャビネット 災害支援部会 日本災害医療 薬剤師学会	緊急医療チーム、被災地へ出発。 日本災害医療薬剤師学会 8 名の薬剤師及び前進基地要員 5 名が、運転ボランティアの協力を得て埼玉 NPO を出発。 日本災害医療薬剤師学会を優先的に仙台薬剤師会館に移送し、先発した WEL 'S 隊、10 トントラック、先遣隊および「市民防災ヘリコプターチーム」が合流して宮城県柴田郡村田町菅生 6 - 1 に菅生サーキット前進基地を設置。救援活動に入る。
2011/3/20 7 : 00	市民キャビネット 災害支援部会	菅生サーキットに市民キャビネット災害支援部会前進基地を設置。現地で活動するボランティアスタッフ 5 名は、先遣隊及び「市民防災ヘリコプターチーム」と合流して救援活動に従事。
	被災地 NGO 協働センター	アレルギー対応の粉ミルクが不足しているのにもない、「粉ミルクを届けようプロジェクト」を立ち上げる。

2011/3/21 6:00	輸送隊	菅生サーキット前進基地からマイクロバスで、いわき市の松村総合病院へ食料を搬送する。
	市民キャビネット支援部会	仙台市役所そばの緊急支援対策本部（ワンファミリー仙台）に灯油、軽油ドラム缶及び食料等の緊急物資を移送。
2011/3/21 20:00	市民キャビネット支援部会	菅生サーキットの市民キャビネット災害支援部会前進基地撤収。
2011/3/21 20:00	[NPO 連携] GANBARO MIYAGI 宮城復興支援センター	現地からの緊急要望支援物資、カップラーメン、缶詰、米、生理用品、紙おむつ、トイレットペーパー、プラスチック・紙コップ、箸などのほか、カセットコンロとカセットボンベ、ウェットティッシュ、ポリタンク、炭、ガスバーナーなど
2011/3/23 14:00	市民キャビネット支援部会	今後も復興支援物資緊急移送や要請に応じた各種移送が必要と思われるので、市民キャビネット災害支援部会専用の4トントラックを購入。活用するプロジェクトを開始。
2011/3/24 9:00	市民キャビネット支援部会	東日本大震災支援センター設置 東日本大震災救援ボランティア研修会のお知らせ
2011/4/24	東日本大震災復興NPO 支援 全国プロジェクト	市民キャビネット災害支援部会が母体となって設立。 於：立正大学品川キャンパス

※市民防災ヘリコプターチームは現在、特定非営利活動法人市民航空災害支援センターとなっています。



物資移送埼玉NPOハウス10.JPG



物資移送埼玉NPOハウス12.JPG



物資移送埼玉NPOハウス3.JPG



物資移送埼玉NPOハウス7.JPG



物資移送埼玉NPOハウス8.JPG



物資移送埼玉NPOハウス9.JPG



募金10.JPG



募金11.JPG



募金12北浦和.JPG



110412市民航空災害支援センター.JPG



110412市民航空災害支援センター1.jpg



20110313気仙沼6.jpg



20110314気仙沼13.jpg



20110314気仙沼9.jpg



23-3-13,14 へり5仙台.jpg



23-3-13,14 へり6.jpg



3.11NPO+3.JPG



3.11NPO+6.jpg



3.11NPO+ワンファミリー(5).JPG



NPO連携福島復興支援センター1.JPG



WFP倉庫1.JPG



WFP倉庫3.JPG



がんばろうみやぎ」(37).jpg



がんばろうみやぎ」(26).jpg



がんばろうミヤギJ4.JPG



がんばろうミヤギ8.jpg



キャンパー1.JPG



キャンパー3.JPG



つばさ号11.JPG



つばさ号3.JPG



つばさ号7.JPG



まけないぞう研修.JPG



遠野まごころネット1.JPG



遠野まごころネット2.JPG



遠野まごころネット連休ボランティア.JPG



気仙沼対策本部.jpg



宮城県立精神医療センター.jpg



広島NPO帰省.JPG



市民航空災害支援センター10.JPG



十八成浜(20).jpg



出発～ヘリ～菅生(46).jpg



石巻5.JPG



石巻9.JPG



川内村 (3).JPG



川内村 (4).JPG



川内村 (5).JPG



川内村.JPG



東日本大震災復興NPO支援・全国プロジェクト



東日本大震災復興NPO支援・全国プロジェクト



楢葉町.JPG



日本災害医療薬剤師学会2.JPG



日本災害医療薬剤師学会3.JPG



日本災害医療薬剤師学会4.JPG



復興支援チームソー部隊.JPG

【2013年5月以降】主たる活動抜粋

- 2013年6月 国土交通省「広域的地域間共助」(杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会)
- 2013年6月 福島県地域づくり総合支援事業(ふるさと・きずな維持・再生支援事業)
- 2013年8月 大宮日進七夕まつり(商店会、地縁組織とNPOとの協働イベント)実行委員
- 2014年1月 協働型災害訓練 in 杉戸実施〔以降毎年開催〕
- 2014年5月 埼玉県〔平成26年度豊かな地域福祉づくり推進(共助の町「日進」創造事業)〕
- 2014年6月 総務省関東総合通信局より「情報通信分野の発展に寄与」で表彰を受ける
- 2014年7月 平成26年度緑の募金「地域の子どもたちを杜へ誘う事業」〔以降毎年継続〕
- 2014年9月 広島豪雨災害に対し、全日本救助犬団体協議会は救助犬23頭、隊員18名派遣
- 2015年2月 NPO プラザ比企開設(埼玉県東松山市大字松山1951番地59)
- 2015年3月 国連防災世界会議「防災情報社会デザインを考える」慶応大学SFC研究所へ協力
- 2015年11月 NPO 防災まつり2015(第11回NPOまつり2015)@代々木公園
- 2016年1月 協働型災害訓練のための班長訓練
- 2016年2月 埼玉県NPO放送局「キミにつながってテレビ」配信開始
- 2016年3月 川内村村営商業施設「YO=TASHI」内お食事処山水開業支援
- 2016年3月 「介護離職のない社会をめざす会」発足への協力
- 2016年4月 協働型災害訓練ワークショップを連合中央メーデー(代々木公園)にて開催

【熊本・大分大地震 2016/04/14】

平成28年熊本・大分大地震発災に対し、2016/04/14(木)21:41市民キャビネット災害支援部会はNPO災害支援センターを埼玉NPOハウスに設置し、災害救助犬の出動・物資輸送・先遣隊の派遣等直ちに救援活動を開始した。多数の避難者が出ていることに鑑み、連携団体と協議して、

2016/04/17(日)11:12NPO連携熊本地震支援センター(八代市)を立ち上げ前進基地とした。

八代市から避難者(夜間2,000名)の避難所運営について協力要請があり、支援物資の輸送、災害ボランティア・コーディネーターを派遣し、熊本市、八代市、宇城市、甲佐町、御船町、嘉島町、益城町、合志市、西原村、大津町、氷川町、由布市各行政を訪問し、ニーズ調査をした。その結果、専門的知識を要する市民救助隊(チェーンソー部隊)の拡充・派遣が急務であり、今後も行政のマンパワー不足が想定され、復興のため経験ある専門化部隊・コーディネーター派遣が継続的に必要と考え、下記活動を実施した。

なお、活動に際し、赤い羽根災害ボランティア・NPO活動サポート募金の助成を受けています。

2016/04/14 21:26 前震

2016/04/14 21:26 九州救助犬協会へ情報提供を求む。

2016/04/14 21:41 熊本地震発災に対し、市民キャビネット災害支援部会はNPO災害支援センターを埼玉NPOハウスに設置した。九州救助犬協会は熊本県警の要請により、本部指揮の下捜索活動に入り、15日~18日4日間に延べ隊員25名・救助犬28頭が被災地(益城町、南阿蘇)に入った。

15日00時17分日本レスキュー協会 隊員3名・救助犬4頭で出動した。他の全日本救助犬団体協議会は出動待機、市民航空災害支援センター・市民救助隊は日本捜索救助犬協会に同行できるよう準備した。

2016/04/14 23:22 市民キャビネットスマートICT部会がI-T-D-A-R-Tと共同でFacebookを立ち上げた。

<https://www.facebook.com/groups/880688795409687/>

同時に全国SNS連絡会が情報共有に参加した。

2016/04/15 5:59 全日本救助犬団体協議会(会長牧原秀樹自民党青年局長)を通じ通行の便宜供与について、政府

に申し入れた。

2016/04/16 11:07 支援金募金活動開始

2016/04/16 12:33 アトピッ子地球の子ネットワークから支援要請があり、飯野隊員を派遣。

2016/04/16 14:16 物資マッチングシステム（DMS）運用開始

2016/04/16 18:30 日本レスキュー協会第 2 陣（後援隊）出動

2016/04/17 21:07 NPO 連携熊本地震支援センター（前進基地）を一般社団法人 MMIX Lab と協働で設置。地元の宇土青年協議会、KA プロジェクトと連携。

2016/04/18 15:20 ステージトラックつばさ号出動 義援物資は DMS に掲載してあります約 300 ケースでフードバンク埼玉（事務局埼玉県労働者福祉協議会）から提供を受けたものです。現地 NPO が活動できるように、ヘルメット 5 個、災害ボランティアユニフォーム 5 着、マスク 200 個、軍手 100 組およびラゼージャケット 50 着も同梱してあります。本物資は八代前進基地を拠点として、地元 NPO が有効な被災地支援を行なえるように手配したものです。東日本大震災経験があるコーディネーター 2 名（市民航空災害支援センター）が同行しています。

※つばさ号は歌手庄野真代さんと共同管理している 4t ステージトラックで東日本大震災でも物資輸送を担いました。

2016/04/19 20:00 現地の状況報告及び八代市からの要請（避難所運営）を受け、船戸隊員他 1 名を派遣した。八代市、八代市社会福祉協議会と協働開始。

2016/04/20 07:27 NPO キャンパー出動（益城町で炊き出し）

2016/04/20 14:25 MMIX Lab、ふうどばんく東北 AGAIN、共生地域創造財団、フードバンク岩手協働で緊急支援物資を<MMIX 熊本ベースキャンプ>に運びました。仙台グループ合流。熊本こども・女性被災者支援ネットから救援要請。

2016/04/23 08:00 報告会&募金活動きたまちしましま公園東日本大震災復興支援イベント

2016/04/24 08:00 報告会&募金活動きたまちしましま公園東日本大震災復興支援イベント

2016/04/25 11:00 埼玉県庁共助社会づくり課へ報告

2016/04/25 16:00 部会長出発（埼玉 NPO ハウス）同行他 2 名

2016/04/25 23:00 部会救助隊に認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会 1 名合流

2016/04/26 09:00 部会長熊本市内、熊本城到着、情報収集開始。

2016/04/26 12:00 八代市鏡支所、千町支所、八代市社会福祉協議会、第 2 中学校、代陽小学校、大田郷避難所他 1 か所訪問

2016/04/26 17:00 報告・調整会議於港区エコプラザ&NPO 連携熊本地震支援センター（前進基地）インターネット中継

2016/04/27 09:00 宇城市、甲佐町、御船町、嘉島町、益城町、合志市、西原村、大津町（各行政訪問）名取復興支援協会と情報交換、17:00 熊本市

2016/04/27 18:00 NPO 連携熊本地震支援センター（前進基地）、大田郷避難所訪問

2016/04/28 09:00（永沼隊員）宇城市、氷川町、由布市他大分県（各行政訪問）

2016/04/28 15:00 部会長埼玉 NPO ハウス着

2016/04/29 08:00 報告会於連合メーデー（代々木公園）

2016/04/29 20:00 鈴木隊員他 1 名出発（乳幼児品輸送・配送）

2016/05/01 24:00 植松隊員他 3 名 NPO 連携熊本地震支援センター（前進基地）到着。02 日より西原村で炊き出し

2016/05/03 10:00 報告会&募金活動於合併記念見沼公園春まつり

2016/05/06 13:30 報告会於福玉会議（ときわ会館）

2016/05/07 13:00 報告動画収録於埼玉NPO放送局

2016/05/11 14:00 活動車両、支援物資、隊員3名（17日まで活動）をNPO連携熊本地震支援センター（前進基地）へ輸送

2016/05/15 09:30 連合埼玉等主催「フリーマーケット」（東松山ボッシュュ駐車場）募金活動。NPO連携熊本地震支援センター（前進基地）関係者参加

2016/06/4 ケアチーム活動、於宇土市鶴城中学校避難所。NPO連携熊本地震支援センター（前進基地）関係者参加

2016/07/03－毎週日曜日 学習支援、於NPO連携熊本地震支援センター（前進基地）。大学生チューターボ

2016/09/11－17 市民救助隊（CFR）訓練、於さいたま市日進。森づくりメンバー参加

2016/10/23 西原村住宅予定地整地、於西原村。森づくりメンバー参加

2016/12/3－5 セラピードッグ活動、於八代市、熊本市、南阿蘇村。認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会メンバー参加

2017/03/22－24 セラピードッグ活動、於八代市、熊本市、南阿蘇村。認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会メンバー参加

2017/03/25 西原村住宅予定地整地・間伐於西原村。森づくりメンバー・九州大学ボランティア参加

※発災以降NPO連携熊本地震支援センター（前進基地）へ一般社団法人MMIX Lab、九州大学、関係者が多数ボランティアで入る。



100NPO連携熊本地震支援センター(前進基地)



101NPO連携熊本地震支援センター(前進基地)



106住宅予定地.JPG



107住宅予定地(作業中)(8).JPG



111住宅予定地(作業中)(12).JPG



124住宅予定地(作業中).jpg



002日本レスキュー協会01.jpg



004日本レスキュー協会05.jpg



006日本レスキュー協会05 (2).jpg



008九州救助犬協会 & 日本レスキュー協会.jpg



012日本レスキュー協会06.jpg



013日本レスキュー協会07.jpg



015物資輸送04.JPG



016物資輸送05.JPG



017物資輸送06.JPG



019NPO連携熊本地震支援センター(前進基)



021報告会.JPG



022物資配送03.jpg



023物資配送01.jpg



024物資配送.jpg



025物資配送02.jpg



026部会長出発02.JPG



035八代市社会福祉協議会.JPG



039避難所へ安眠用具寄贈.JPG



042宇城市.JPG



043甲佐町ボランティアセンター.JPG



044甲佐町役場.JPG



046御船町.JPG



048嘉島町.JPG



067NPOキャンパー.JPG



072益城町22.JPG



093西原村.JPG



095合志市.JPG



097太田郷05.JPG



098出発.JPG



099活動中.jpg

【西日本豪雨災害活動記録】

●2018/07/09 11:00 広島県熊野町の要請に基づき先遣隊（認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会）隊員4名・災害救助犬2頭体制で、熊野町川角 に出動。行方不明者捜索活動にあたる。

2018/07/11 認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会安芸消防本部の指揮下にはいり、行方不明者捜索活動にあたる。

●2018/07/10 (水) 11:00 西日本豪雨災害支援に対し、市民キャビネット災害支援部会はNPO災害支援センターを埼玉NPOハウスに設置しました。市民キャビネット災害支援部会メーリングリストは災害モードで運用しています。 Ccnp-rescue@googlegroups.com

認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会に対し、熊野町から出動要請が出ています。全日本救助犬団体協議会は認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会が先発隊として、広島県熊野町川角に入っています。特定非営利活動法人日本搜索救助犬協会、市民キャビネット災害支援部会市民救助隊は出動準備態勢にあります。

●2018/07/12 市民キャビネット災害支援部会支援隊（市民航空災害支援センターメンバー）：隊員2名、4Tトラック1台の体制で、フードバンク埼玉から供与された支援物資を搭載して、特定非営利活動法人日本搜索救助犬協会に同行して、安芸消防本部に向けて出動。

2018/07/12 13:00 特定非営利活動法人日本搜索救助犬協会隊員3名災害救助犬3頭体制で出動、安芸消防本部の指揮下にはいり、行方不明者捜索活動にあたる。

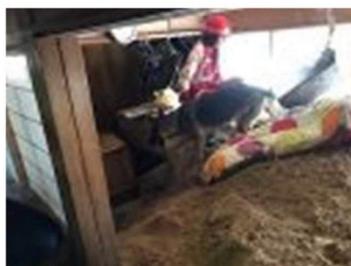
●2018/07/13 特定非営利活動法人日本搜索救助犬協会行方不明者捜索活動終了後、支援隊+特定非営利活動法人日本搜索救助犬協会は倉敷市真備総合公園に向かい、倉敷市消防本部の指揮下に入り、捜索活動に従事。

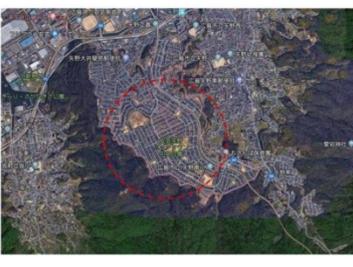
●2018/07/14 支援隊+特定非営利活動法人日本搜索救助犬協会は倉敷市真備総合公園に向かい、倉敷市消防本部の指揮下に入り、捜索活動に従事。

●2018/07/15 支援隊+特定非営利活動法人日本搜索救助犬協会は再度広島市消防本部の指揮下に入り、捜索活動に従事。

●2018/07/16 15日の捜索個所、矢野、坂町から各1名、合計2名のご遺体発見につながりました。ご冥福を祈念します。

支援隊+特定非営利活動法人日本搜索救助犬協会は任務完了につき撤収。





【2019 年台風 19 号】

●2019/10/12 (土) 台風 19 号関東に上陸

2019/10/13 (日) 2019 年台風 19 号豪雨災害支援に対し、市民キャビネット災害支援部会は NPO 災害支援センターを埼玉 NPO ハウスに設置しました。

市民キャビネット災害支援部会メーリングリストは災害モードで運用しています。

Ccnp-rescue@googlegroups.com

認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会は長野県、福島県にペット避難所支援のため、出動しました。

本部は入間川・荒川合流地点（開平橋周辺）東松山、吉見町、鴻巣市、熊谷市の被害状況確認を行ないました。他地域の現地情報にもとづき指令を発します。

2019/10/13 (日) 市民キャビネット災害支援部会情報計画部：隊員 3 名、入間川・荒川合流地点（開平橋周辺）、吉見町、東松山、鴻巣市、熊谷市の被害状況確認を行ないました。

2019/10/14 (月) 市民キャビネット災害支援部会は、予定されていた、太鼓祭 in 彩の国くまがやドームに参加して、台風被害者への黙とう、東日本大震災被災者（加須ふれあいセンター、あゆみの会、ターニャの店）と出演者・来場者との交流会を行いました。被災地調査。

2019/10/15 (月) 情報収集。さいたま市西区、上尾市の冠水地区への支援活動決定。出動準備指令発令。

2019/10/16 (月) 上尾市平方、上宿公民館避難所（自治会運営）に対し支援活動開始。

要請に基づき支援物資（フードバンク埼玉提供：タオル、洗面道具、飲用水、お米、アルファ米等、市民キャビネット災害支援部会：ラザージャケット食器等）、炊き出し（加須ふれあいセンター：カレー 50 食）の支援を行いました。社会福祉協議会登録災害ボランティアの皆さんが清掃活動に従事していました。

2019/10/19 (土) 支援物資（フードバンク埼玉提供）を搬入

2019/10/20 (日) 上尾市平方避難所閉鎖に伴い、同所での支援活動終了。於きたまちしましま公園支援金募金活動。

2019/10/21 (月) 福島県いわき市冠水地区からの支援要請

以下市民キャビネット災害支援部会小林幸生からの報告

夏井川流域の被害状況をまとめました。

平窪地区 2m の浸水 小川地区 駅の北側、東側が浸水 市役所支署が流されていて、公民館にて業務を行っている。

赤井地区 はと保育園付近現在も 1.5m 水没中 好間地区 好間ほぼ全域 床上浸水

平浄水場が機能を停止 3 万 6 千件 世帯断水中、断水地区 平、四倉、久之浜、豊間、薄磯、郷ヶ丘、自由ヶ丘、明治団地、平成ニュータウン、

小川 鮫川流域の被害状況 遠野地区 床上浸水

水の送り先 大倉保育園

2019/10/24 (木) 断水状態の地域に、飲用水 150 箱（21 × 12 本 × 150 箱）等を第一弾として、支援要請があった避難所に物資輸送を行います。飲用水はフードバンク埼玉から提供、トラックは埼玉労福協の物を使います。

2019/10/24 (木) 東松山市内での浸水地区被災者に対し、お米、食料品の支援物資を東松山市の支援団体に輸送しました。（提供フードバンク埼玉）

2019/10/27 (日) 東松山市内での浸水家屋（高齢者避難済で社会福祉協議会対象外）の清掃活動を行いました。（協力絆ジャパン、チーム東松山）

2019/10/30 (水), 11/5 (火) 追加の食料等の支援物資を東松山市の支援団体に輸送しました。（提供フードバンク埼玉）

2019/11/2（土）—11/4（月）東松山市葛袋の浸水家屋の床下泥だしボランティア活動（協力絆ジャパン、チーム東松山）

複数回フードバンク埼玉の協力を得て、東松山の被災者に対し、お米・お菓子を支援しました。

03/25 眞如苑様、フードバンク埼玉の協力を得て、東松山の被災者・コミュニティカフェに対し、お菓子・お米を支援しました。

【新型コロナ（COVID-19）感染症支援】

●2020/03/10 さいたま市小・中学校休校に伴う子ども弁当の無料配布（主体日進親和会・寿司割烹山水）に対し食材、お菓子の支援を数回行う。協力フードバンク埼玉・眞如苑。

●2020/03/25 休校中の子供たちに、クッキーの無料配布。（さいたま市内、東松山市内、加須ふれあいセンター、フードバンク埼玉等）協力・眞如苑。

●2020/04/23 乳児園・児童養護施設3か所に、クッキーの無料配布。（協力：松島氏・眞如苑。

●2020/04/28 埼玉・東京の医療機関に対し、簡易防護服としてラゼージャケット15000枚を支援。

【2020年九州南部豪雨災害】

●2020/07/04（土）九州南部豪雨特別警報

●2020/07/04（土）2020年九州南部豪雨災害支援に対し、市民キャビネット災害支援部会はNPO災害支援センターを埼玉NPOハウスに設置しました。

15：10 認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会は隊員6名、災害救助犬3頭体制で、熊本、鹿児島県に支援のため、出動しました。本部は情報収集に努めています。現地情報にもとづき指令を発します。

2020/07/05（日）認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会報告

5日午前6時、熊本県津奈木町役場に到着し、聞き取り調査を実施。津奈木町で土砂崩れに巻き込まれた家屋で、行方不明者2名を捜索中との情報があり、現地で活動している自衛隊、警察と連携し、午前7時から約1時間にわたり、救犬ジャパン、井本氏の協力で4頭の災害救助犬が捜索活動を行いました。現場は土砂に埋もれ反応は薄かったものの、少しでも反応があった箇所を指揮所に伝え、そこを中心とした捜索活動が再開しています。引き続き現場で情報収集をし、支援活動を行います。ご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

●2020/07/05（日）九州救助犬協会 前進基地候補の本部・犬舎が被災したが、隊員・災害救助犬は無事との連絡が入った。全日本救助犬団体協議会は被災地の前進基地の候補拠点であるが、被災を受ける危険性も併せ持っている。早期の再建支援のため、市民キャビネット災害支援部会災害支援基金より100万円の支援金交付を決定した。市民の寄付金及びチャリティコンサートの収益金等を原資とする互助制度構築が急がれる。



2019-10支援品.JPG



2019-10炊き出し.JPG



2020-07犬舎.jpg



2020-07捜索活動(2).jpg



2020-07捜索活動.jpg



2020-07被害状況.jpg



コロナ子ども弁当.jpg



コロナ支援品お菓子.JPG

【協働型災害訓練】

第1回から取材・記録に協力いただいている 中央社協の「まちひとサイト」のまとめです。サイトで確認ください。<http://machihito.blog131.fc2.com/blog-entry-2621.html>

大災害被災後、公的防災機関・被災現場の行政・自治対応と並行する、市民活動協働化訓練『協働型災害訓練 in 杉戸』第六回を終えて

2019年03月20日(水)

行政・企業などの既存組織が事前の防災・被災対応体制に沿って動くことと、市民団体の自発的な活動を組織化して、公共防災機関や行政・企業と連携してゆくプロセスは異なります。

しかし、国や行政からの呼びかけ以前に、市民の自主的な活動を自己組織的に繋ぎ合い、公共防災機関活動と協調してゆくことで、より細かな被災対応が可能です。そこで必要となるのが、災害対応の共通原則: Incident Command System、で訓練を重ねることで、混乱と無駄と消耗を減らします。

2014年の第1回協働型災害訓練 in 杉戸から今年の第6回まで、できた取材を振り返り、原点と今後を考えます。

取材・記録: まちひとサイト

あとがき> 二日間のスケジュールにあるように今回も、防災・被災対応に関わる新たな活動紹介がありました。大規模災害では、公的防災機関: 自衛隊・警察・消防、被災地行政の立ち上げる災害対策本部が、現場対応体制を作っている最中にも、①被災現場での自主対応の組織化、②広域の市民支援団体参集の組織化が必要になります。杉戸町は、被災以前からの富岡町とのスポーツ交流が縁で富岡町・川内村の被災者の受け入れ活動をしていた地元の団体と、新潟沖地震・阪神淡路大震災などの支援をしてきた市民キャビネット災害支援部会・スマートICT部会などが軸となって、杉戸町・埼玉県など周辺の市民団体と広域の市民団体が集まって始まったのがこの協働型災害訓練です。毎回、富岡町・川内村からも参加いただくだけでなく、避難者の医療・生活対応も続け、東埼玉病院からは、県民の医療情報とともに避難者も入れた先進的な日常で使われる情報共有システムが動くようになっています。

現地行政・社会福祉協議会などが、災害ボランティアを受け入れる体制準備・運営が立ち上がっても、現場支援を経験し合っている災害支援団体のネットワークが、被災地の外側に中継拠点や中継情報プラットフォームをつくり、公共防災機関と現地行政・自治対応活動の隙間を補い続ける必要は残るでしょう。

関連記事での、佃LOVESの活動では、教会のネットワークにママ友が活動を広げ、続けました。

チームTukiji Womenは、築地市場の集配ネットワークを活かした支援が続きました。

被災時、非常事態へと転換し、その活動の立ち上げ、合体、分担、持続、日常への転換まで、人と人とモノを繋ぐコミュニケーションの基本姿勢の基準が必要です。その上でこそ、情報収集・分析決断・実行・評価の集積・進化・応用ができる。

名称	実施日	場所	内容
第1回協働型災害訓練 in 杉戸	2014/01/24 2014/01/25	すぎとピア エコ・スポいずみ&江戸川 スーパー堤防	ICS・DIGにそった図上災害訓練 市民による救助 トリアージ訓練(米陸軍消防・熊丸市民救助隊(CFR)隊長) 自家用ヘリコプターと災害救助犬の移送訓練

第2回協働型災害訓練 in 杉戸		2015/01/23 2015/01/24	すぎとピア すぎとピア	防災トレーニング1（元消防学校体育教官 鎌田修広氏（株式会社タフ・ジャパン代表） ICS・DIG（関係者会議・実行部・計画情報部・後方支援部・財務部での図上訓練
第3回協働型災害訓練 in 杉戸		2016/01/29 2016/01/30	すぎとピア すぎとピア	首都圏災害を想定し、後方支援自治体として活動する杉戸町で、ICSをベースにしたリーダー研修、関係者会議活用、自主防災組織に対する避難所運営研修等。
第4回協働型災害訓練 in 杉戸		2017/02/03 2017/02/04	エコスポいずみ エコスポいずみ	熊本地震報告（特定非営利活動法人九州救助犬協会、マイクロソフト、MMIX LAB他）
第5回協働型災害訓練 in 杉戸		2018/02/02 2018/02/03	彩の国いきいきセンター・ すぎとピア	避難所ワークショップ ICS・DIG（関係者会議・実行部・計画情報部・後方支援部・財務部での図上訓練
第6回協働型災害訓練 in 杉戸		2019/02/01 2019/02/02	彩の国いきいきセンター・ すぎとピア	ウィメンズレジリエンス～今必要な女性目線での防災～ 看護師 田原ひとみ・ 動物看護師 西村裕子（ペットの防災）・ 一般社団法人防災ガール 代表理事 田中美咲 避難所運営ゲーム～HUG～（浦和防祭連合）
協働型災害訓練 in 東京		2019/10/05	田町交通ビル5階大会議室	「東日本大震災時の避難者支援の取り組み～物流・食料支援を中心として～」埼玉労福協 永田専務理事 「住民アンケートからみえるもの」港区芝会議まちづくり部会佐野靖夫先生
第7回協働型災害訓練 in 杉戸		2020/01/31 2020/02/01	彩の国いきいきセンター・ すぎとピア	災害復興法学ワーク（講師：岡本正弁護士） リアルペット避難所運営（運営：動物支援ナース）

本活動は民間非営利活動で、市民の寄付によって行われています。

銀行振り込み

埼玉りそな銀行 宮原支店 普通預金口座 4181235 トクヒ) エヌピーオーサイタマネット

ジャパンネット銀行 すずめ支店 (002) 普通預金口座 5477632 トクヒ) エヌピーオーサイタマネット

クレジットカード決済画面 <https://nposaitamanet.or.jp/> から決済できます。



このマークがついていればご利用可能です

寄付金・支援金は援助いただける寄付金・支援金総額（任意金額）を、御入力ください。

編集後記

もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道となるのだ。

（『魯迅文集 第1巻』竹内 好 訳）

松尾道夫氏とは不思議な人物である。

道のないところに道をつくる天才と言っても言い過ぎではないと常々思う。

松尾氏に出会った頃の話であるが、「道友」という会社を立ち上げて活躍していた時期があった。

お父上がつけて下さった名前だったと聞かされた記憶がある。

まさに松尾氏そのものにぴったりのいい名前だと私の心に刻まれ、ずっと心に残っている。

どこに行っても、その人なつつこさで友人をつくるのがはやくてうまい。

また、その人たちとの連携もまた素晴らしい。

適材適所に人をうまく配置する才能にも恵まれている。

現在の活躍の舞台は主に NPO 埼玉ネット。

今回、私が、被災地福島県いわき市の出身ということもあり、東日本大震災初動救援活動抜粋の仕事を任されたと思うのだが、九州長崎県佐世保出身の松尾氏にとっては、東北地方という舞台は、私とのつながり以外、ほとんど縁もゆかりもない地域のはずである。

それが、自分の故郷でもあるかのごとく、適切な状況の把握と素早い動きで大きな仕事をやってのけたのである。さらには、この仕事を通して沢山の見ず知らずの人たちの力を結集させ、その人たちとの間に絆という一本の太い道をつくったのである。

あまり知られていないが、私の好きな歌手、本田路津子の歌う曲に「一人の手」という歌がある。

一人の小さな手 何もできないけど
それでも みんなの手と手をあわせれば
何かできる 何かできる

松尾氏の手は小さな手ではなくちょっと太め、少しごつごつしてはいるが、みんなの心を一つにまとめることのできる魔法の手である。

松尾氏に頼られている。その思いだけで人は動く。

私もその一人である。

2020 年夏

石山 僕（作家）



市民キャビネット災害支援部会
特定非営利活動法人NPO埼玉ネット
〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町
2丁目544番地1 埼玉NPOハウス
TEL048-729-6151・FAX048-729-6152

<https://nposaitamanet.or.jp/>
<https://nngo.net/citycabinet/>

2020年8月20日 初版第1刷発行